

Ⅲ. 研究報告

まず私に対する研究助成金交付につきまして御礼を申しあげたい
と思ひます。研究テーマにつきましては指導担当の関口守衛教授が
る研究期間に適合する題目を選んでいただきました。

それは「高血圧性心疾患における重症度と左右心室筋の超
微形態病変との関連—心内膜心筋生検所見による検討—」で
あります。そこで、高血圧症における重症度を病期にわけ、
各病期に概当する症例について左右心室の同時心内膜心筋生検
を行い得た20症例の標本の電子顕微鏡(電顕)的観察、分析を
1996年11月から開始しております。またその研究結果については
未知であります。左右心室筋共に高血圧症の重症度が増加す
と共に超微形態の病変度が増大するのではないかとこの印象を得て
おります。そこで病変度を定量的に評価できないかどうかについての
検討も加えております。本研究は20症例の左右心筋の生検標
本の電顕的評価を行うものであり、多くの努力と時間を要する事
のであります。内外でこの様な研究報告は無いので研究遂行
を目指して努力を続けております。成るべく早く研究成果の学会
ないし英文論文発表が出来ることを望んでおります。

Ⅳ. 助成金の使途内訳

助成金額 600,000 円

交通費 100,000 円 宿泊費 60,000 円 食費 250,000 円

雑費 60,000 円 他 130,000 円
(研究費)

月	研 究 実 施 内 容
3 月	<p>高血圧性心臓病症例の重症度3段階における左右心室の生検心筋細胞の超微形態所見の定量的解析。高血圧症における重症度を3病期にわけ、各病期に該当する症例について左右心室の同時心内膜心筋生検を行い得た20症例の標本の電子顕微鏡（電顕）的観察、分析を1997年1月から開始している。まだその結果については未知であるが、左右心室筋共に高血圧症の重症度が増加すると共に超微形態の病変度が増大するのではないかとの印象を得ている。そこで病変度を定量的に評価出来ないかどうかについての検討も加えている。本研究は20症例の左右心筋の生検標本の電顕的評価を行うものであり、多くの努力と時間を要するものであるが、内外でこの様な研究報告はないので、研究遂行を目指して努力を続けている。成るべく早く研究成果の学会ないし、英文論文発表が出来ることを望んでいる。当面、1997年11月28、29日に大阪で開催予定の心筋生検研究会において、第一報を報告予定である。なお、本研究の遂行には6ヶ月では無理なので、他の奨学金による援助を加えることとし、信州医学研究振興財団より6ヶ月間の研究滞在資金を得て、1997年末迄に完成予定と計画している。</p>

〒390 松本市旭3丁目1の1
信州大学医学部第一内科

関口守徳 